

若狭湾 夏のフェスティバル ～わかさわんのうみであそぼう～

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
300	364	325	325 (宿泊：270、日帰り：55)

2. 事業内容（概要）

◆ねらい

- ・ 家族と一緒に活動しながら、海の魅力や面白さを感じる。
- ・ 波の音を聞きながら夏の若狭湾を感じ、自然の素晴らしさを知る。
- ・ 海の活動やキャンプなどの自然体験の経験が少ない家族に、その面白さを伝える。

◆期日・期間

平成29年8月26日（土）～8月27日（日）＜1泊2日＞

◆連携機関

後援

福井県教育委員会、小浜市教育委員会、若狭町教育委員会、
一般社団法人おおい町観光協会、一般社団法人若狭高浜観光協会、
一般社団法人若狭三方五湖観光協会、若狭おばま観光協会

◆参加者分析

福井県嶺南地域（敦賀市、美浜町、若狭町、小浜市、おおい町、高浜町）と滋賀県高島市の小学校と幼稚園、保育所、こども園にチラシを配布して、広報を行った。また、当施設のホームページやフェイスブックにも掲載した。

チラシを配布した福井県、滋賀県からの参加が多く、次いで、京都府、愛知県、大阪府、岐阜県、兵庫県と近隣の府県からの参加もいただいた。舞鶴若狭道を利用すると京都府北部からのアクセスがよい。また、長野県や奈良県、三重県と遠方からの参加もいただいた。

また、今回のフェスティバルは、これまで当施設が実施してきた「海のフェスティバル」よりも年齢層が低い子どものいる家族（年少児（3歳児）～小学校3年生以下程度）を想定して、広報したり、プログラムを検討したりした。「夏のフェスティバル」は、9月末にスノーケリングやシーカヤックなどの海の体験活動を中心に実施している。時期が夏の最盛期ではないことやスノーケリングは年長児から、シーカヤックは小学4年生以上からとしていたり、必ず親子で体験してもらっているため、兄弟姉妹の年齢が低いと様々な体験をすることが難しい。そこで、特に年齢制限のある活動を設けず、低年齢期の子どもがいる家族が楽しんでもらえるように計画した。また、チラシにも、『「今年まだ海に行っていないなあ～。」、「海に行きたくても、ちょっと怖い・・・。」、「キャンプしてみたいけど、どうしたらいいの!？」、「泊りがけで、ゆっくり海や山に行きたいなあ～。」このようなご家族の皆さん！夏の終わりの若狭湾の海で、一緒に楽しみませんか?』と記載して、気軽に参加してもらえるような工夫もした結果、低年齢の子どもへの参加を得ることができたと考えている。

こうした工夫の結果、申込者の子どもの年齢層（表1）を見ても、ほぼ想定していた年齢層となっていた。

表1. 夏のフェスティバルの申込者数（0歳～13歳の子ども）

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳
人数	1	2	4	8	22	18	20	21	16	21	9	8	5	5

◆企画のポイント（日程・特色など）

<日程>

8月26日（土）	8月27日（日）
11：00～ 受付	7：00 朝のつどい
11：20 宿泊についての説明	7：30 朝食・清掃・荷物移動
11：30 昼食	9：00 海の体験スタート！
13：00 開会式 海の体験スタート！	選択活動
16：30 選択活動	うどん作り、豆腐作りスタート！
キャンプ体験・野外炊飯体験スタート！	12：00 解散
17：15 夕食・入浴	11：30 昼食（～14：00 食堂閉店）
19：00 浜辺のキャンプファイアー	※希望者のみ
22：00 就寝	

<特色>

本事業は、本年度からスタートした新規事業であり、当施設の一の特色である「海」をよりよい時期に、より多くの家族やグループの皆さんに体験してもらいたいとの思いを持って計画をしている。夏休みの終わりの週末に、家族やグループで楽しい海での思い出を作ってもらうとともに、家族やグループだけでは、ちょっと難しいなと思ってしまうような「テント泊」や「野外炊事」の体験の機会も設けることとした。

本事業の主な体験は、「水泳活動」である。当施設では、6月中旬～9月上旬にかけて、ブイとロープで約60メートル四方の2つの水泳エリアと各エリアに1台ずつ飛び込み台を設置している。各エリア定員は150名程度であり、活動がある際には、外部業者に委託した水泳監視員を1名常駐している。一般的な海水浴場では、こうしたエリアが区切られていることはあっても、監視員まで配置している少ないだろう。また、幼児用、子供用、大人用のライフジャケットの貸出も行うこととした。小さなお子さんがいても、また海に慣れていない大人でも、できる限り安心して海に入ることができるように準備し、海を楽しんでもらいたいと考えている。また、同時に「磯観察」もできるように、タイドプールという磯場に、スタッフを配置して、箱めがねを使って、磯場の生き物を観察できるように準備しておくようにした。

また、海の活動として、「スタンドアップパドルサーフィン（以下、SUP）」の体験も取り入れた。近年、人気が高まっているマリンスポーツで、サーフボードの上に立って、パドルを漕いで海の上を気軽に散歩できるものである。この近隣地域の海水浴場などでも、愛好者を見かけるようになってきているが、まだまだ体験したことがない人は多い。ホットスタイル小浜店の浜岸氏、ビックスポーツジャパンの島氏、若狭高浜観光協会の須藤氏の指導者3名を招いて体験を実施した。

希望者には、「テント泊」と「野外炊事」をできる機会も設けた。こうした活動は、道具を持っていなかったり、教えてくれる人や一緒にやってくれる人がいないとなかなか体験したくてもできないのではないかと考えている。また、当施設では、研修支援事業において、テント泊や野外炊事の指導は原則として実施していないので、家族やグループで当施設を利用したとしても、初めての方は、二の足を踏んでしまうことも考えられる。教育事業で実施している指導のノウハウを生かして、キャンプや野外炊事が初めての方でも安心してできるように、心がけて指導をすることとした。キャンプ場や野外炊事場のキャパシティーも考慮して、テント泊体験は16組、野外炊事体験は12組として、希望が多数の場合は、抽選とすることとした。

さらに、夏休みの最後ということもあり、自由研究のテーマとしても活用できそうな、海水を使った「豆腐」と「うどん」作りの活動も設けた。この2つの体験は、普段から利用団体に提供しているものではあるが、実施している回数数があまり多くない。海は、私たちの普段の「食」とつながっている部分が多々ある。例えば、「塩」、「のり」、「かつおだし」にしてみても、日本中どこに行っても出会うことができる海の恵みである。こうした海と食のつながりについても、より多くの人に広く知ってもらいたいと考え、実施することとした。こちらも限定10組とし、希望が多い場合は、抽選とすることとした。

◆運営のポイント

- これまで実施してきた「海のフェスティバル」との差別化を図るために、活動を「水泳活動」と「磯観察」、「SUP」の3つの体験に絞ることとした。スノーケリングやシーカヤックなどは、9月末の「海のフェスティバル」で実施することとし、釣りやボート活動については、参加者からの希望があっても実施をしないこととした。また、キャンプファイアーも浜で行うこととした。このように時間の許す限りゆったりとした海での時間を過ごしてもらえるようにした。
- テント泊や野外炊事については、海での体験をした後、16時30分から説明を開始することとした。海での活動を中心として担当職員が説明から準備、実際の活動、片付けまで、一緒になって行うことで安心して体験できるように心がけた。また、お子さんが小さな家族については、職員がそのサポートをしつつも、できる限り親子で協力して行えるように心がけた。
- SUP体験は、海のフェスティバルでも実施してきた活動である。その際は、体験する人数を制限し、午前や午後を使ってじっくりと体験していた。今回は、30分程度と体験時間を区切り、3名の指導者からレクチャーを受けて、親子で海に漕ぎ出すように考えていた。しかしながら思った以上に希望者が多くなり、炎天下の浜で待ってもらう時間が長くなってしまい、翌日からは、希望者の待ち時間をなくすために、整理券を配布するような方式に変えることとした。

3. アンケート結果

(1) アンケート

<参加者>

項目	4	3	2	1
事業全体の感想は、どうでしたか	69.6	28.6	1.8	0.0
事業全体の進め方は、どうでしたか	62.5	33.9	3.6	0.0
青少年自然の家のスタッフは、どうでしたか	87.5	10.7	0.0	0.0
海の活動は、どうでしたか	85.7	12.5	0.0	0.0
キャンプ、野外炊事、うどん作りなど、はどうでしたか	32.1	16.1	3.6	0.0
食事や食堂の人は、どうでしたか	55.4	30.4	3.6	1.8

4満足 3やや満足 2やや不満 1不満

(2) 参加者の声

- (全体の感想) 海が楽しかった (4歳児より)
- (全体の感想) 初のフェスティバル参加でしたが、とっても楽しかったです。
- (全体の感想) 子どもたちは、初めての海でとても大喜びでした。
- (全体の感想) 海での遊びを存分にできた。何より子どもがとても楽しく遊んでいた!
- (進め方) のびのびできてよかったです。
- (自然の家スタッフ) 楽しい気持ちにしてくださりありがとうございます。
- (キャンプ等) いつもできないことができた。素敵な体験内容もよかったです。
- (その他) 本当に子どもたちにとっても忘れられない日になったと思います。この機会を作ってくださりありがとうございました。
- (その他) とても美しいところで、県内在住ですが知らずに驚きました。
- (その他) 知らない家族の方と交流もあった。とても楽しかったです。
- (全体の感想) 清潔感が欲しかった。ベッドのゴミがすごかった。
- (進め方) ご飯や入浴の時間を一応決めるとみんなスムーズになるか。
- (海の体験) SUP体験に人が集中していたので、もう少し活動があればよかったのかもと思います。
- (海の体験) SUP体験の時間が短いので、先に参加者にアンケートをとって欲しい。
- (キャンプ等) キャンプ体験をする人は、全員野外炊飯するとはチラシでは分らなかった。キャンプのトイレが汚れが目立ち、手入れが行き届いていない印象であった。

- （キャンプ等）野外炊飯の時間がかかりすぎた。
- （キャンプ等）個々への説明が足りてなかったが、とうふやうどんはおいしかったです。
- （その他）初日も午前中から活動したいです。
- （その他）夕方から寝るまでの間、エアコンが効かなくて部屋はとても暑かったです。小さい子が寝られなくて……。夜中は寒いくらいでした。
- （その他）プログラムは楽しかったし、スタッフの皆さんの対応もよかったのですが、もう少し清潔にして、食事にも気を配った方が、小さい子連れも利用しやすいのでは。ここで寝て、ご飯を食べるのかと思うとあまり利用したくない。
- （その他）参加人数が多く、相部屋になるかもしれないと案内にありましたが、やはりプライベートや家族の都合というものがありますので、知らない方と相部屋になるのかよくないと思います。グループや家族単位で必ず部屋は確保してください。知らない方と相部屋になるのならまだ落選した方がよいです。

4. 成果と課題

(1) 成果

○施設が一番魅力的な時期に多くの人に来ていただく機会を設けることに効果がある

手探りの新規事業ではあったが、夏の海を家族やグループで楽しんでもらいたいという目的は十分に達成できたのではないと思う。子どもたちが楽しそうに海で遊ぶ姿を見ることで、保護者の方も参加してよかったと思っていただけたようである。

夏の海は、そこにいてただで楽しく、そして穏やかな海を見ていると、自分自身も穏やかな気持ちになってくる。特別なプログラムはない事業ではあったが、のんびりとした時間を過ごす中で、改めて海の良さ、若狭地域の良さを、参加者一人一人が感じていただくこともできただろう。

当施設の1番の強みは、すぐ目の前に海があるというこの環境である。この環境がよりよい時期にフェスティバルを開催することで、ここに施設があることの意義や自然体験活動の楽しさを、参加者に伝えることができるのではないか。

今後は、地域の様々な団体や機関にもより協力をいただき、魅力ある事業になるよう工夫していきたい。

○家族やグループにとっての自然体験活動の入り口となるような事業にニーズはある

キャンプ体験は定員16組としていたが、ちょうど16組の応募があった。野外炊事体験は定員12組のところ、27組の希望があり、抽選をして12組にさせていただいた。参加者からは、「子どもたちと楽しくカレー作りができた」「ふだんできないから楽しかった」「今まで体験したことなくて良かったです」などの声が聞かれ、満足していただいた参加者が多かった。施設には、体験できる場所や道具があり、それらを活用して、日頃から指導をしている職員がいる。様々な活動をやってみたいと思っている一般の人たちの後押しをするためには、それらを組み合わせる活用することが大切だと考える。場所と道具だけでも、一緒に活動をしてくれる人がいなければ、初めての方にとっては、難しく思えるはずである。また、複数の家族やグループで行うことで、安心感や一体感を味わうこともできるだろう。このような機会を設けていくことは、体験活動の普及にとって、重要な意味があると感じることができた。当施設の利用者の多くは、学校団体や青少年教育団体などであり、普段では、家族やグループに対しては、十分な活動支援ができていない部分もあるだろう。それを補うためにも、こうした機会を有効に活用し、今後もどのような機会を設けることができるのか、検討していきたい。

また、遠方からの参加者もいる機会に、若狭地域できる体験活動などについても伝えていくことで、今後も何かしてみたいという思いに上手に答えていけるようにしたいと考えている。

○特色あるフェスティバルを開催することで施設や若狭地域のファンを増やすことができる

当施設を会場として、本年度は、「夏のフェスティバル」、「海のフェスティバル」、「クラ

フトマルシェ」の3事業を実施した。当施設では、職員の直接指導を行っているスノーケリング活動やシーカヤック活動、SUP体験については、団体での利用にのみ提供しており、小学4年生以上、24人までという制限も設けているため、現在のところ、家族やグループには提供できていない。こうした海の活動をより多くの方に提供するための機会として、9月末～10月上旬に「海のフェスティバル」を実施している。また、近隣の国立施設や地域で様々な体験活動を提供している団体に集まっていただき、クラフト活動を中心に体験できる機会として12月上旬に「クラフトマルシェ」を実施している。夏のフェスティバルや海のフェスティバルでは、クラフト活動などのブースを設けたとしても、海の体験が中心となるため、体験する参加者は少なく、また着替えや片付けに時間もかかるため、体験することが難しいと考える。そこで、機会を改め、じっくりと様々なクラフト活動に取り組んでいただけるようにと考え、実施しているところである。

このように、それぞれのフェスティバルに特色を設けることで、お子さんの年齢や興味・関心などに合わせ、参加しやすくしているところである。本年度の他の事業を見ても、夏のフェスティバルにはじまり、他の2事業にも参加していただいている家族もいる。また、当施設の教育事業に参加していたお子さんの家族もいる。このように、多様な機会を設けることで、より多くの方に体験活動の楽しさを知っていただき、当施設のみならず、この若狭地域のファンを増やしていけたらと考えている。

(2) 課題

●家族やグループから指摘は、素直な施設への評価。今後の施設運営にどう生かすか

施設の清掃に関する指摘が多く見られた。毎日の退所点検で職員が確認しているが、繁忙期ということもあり、十分に目が行き届いていないところもあったと感じている。また、食事についても、「品数を少なくするか、コストを上げてもいいので、もう少しおいしいものや質の良いものが食べられたら」という声が聞かれた。大人数での利用を対象として設定されている施設の食事であり、家族で宿泊するようなホテルや旅館とは比べることは難しいとは思いますが、低年齢の子どもから大人までが集まるフェスティバルとしての食事メニューも今後食堂と相談していきたいところである。

当施設の利用者アンケートは、団体の引率者のみに記入していただいているために、多くの声を聞くことはなかなか難しい。一方、こうしたフェスティバルでのアンケートでは、より多くの感想を聞くことができる。すべてに対応することは難しいと思うが、様々な声があることを理解したうえで、日々の業務につなげられるような部分を改善していきたいと思う。

●より多くの人に体験してもらいたいという思いと、現実のギャップをどう埋めるか

今回は、参加申込がほぼ定員と同じくらいであったため、全員を受け入れることとしたが、相部屋について、厳しい感想もあった。相部屋になるかもしれないことについては、参加決定通知で伝えたのだが、伝える時期が遅かったように感じる。母親と同性の子ども同士、父親と同性の子ども同士が相部屋になるように、いくつかの家族にお願いした。チラシや申込の段階で、相部屋となることもあることを伝えたり、相部屋でもよいかどうかを参加者にしてもらおうようにするなど、今後は改善していきたい。

また、水泳活動や磯観察以外の活動としては、SUP体験しか準備していなかったため、SUP体験については、大勢の参加希望があり、炎天下の中で待ってもらう時間が長くなってしまった。講師やスタッフを含めて、およその時間を区切ったり、3つのグループに分けて説明をしたりと工夫はしてみたものの、どうしても待ち時間ができてしまった。体験した参加者からは、「初めて立って漕げて、嬉しかった」「もう一度したい」といった感想があり、よい機会であったと思う。もう少し他の体験もできるようにし、参加者が集中することをなくすなど対応を考えてみたいと思う。

●ゆったりと自然を楽しむためのよりよいプログラムの検討

特に、キャンプ体験の参加者からは、「時間的な余裕がなく忙しかった」「(時間がなく)キャンプファイヤーに参加できなかった」「疲労感が大きかった」などといった声も聞かれ

た。また、小さなお子さんのいる家族は、テント泊が難しいということで、宿泊室に変更することもあった。もちろん、こうした活動は、時間や手間がかかる活動である。しかしながら、どれだけ時間がかかるのか、または手間や労力がかかるのかは、やってみないことにはわからないことも多々ある。事前に参加者に伝えておくべき情報が不足していたことは明らかであったので、今後は、おおよその時間の流れをきちんと伝えておくようにしたい。また、キャンプ体験については、テント設営してから、野外炊事も実施するように計画をしていたが、野外炊事も行うことを把握していなかった参加者もいた。経験の浅い参加者に対するキャンプ体験のねらいが明確ではなかったため、今後は、テント泊のみにするなど、個々の活動のねらいをはっきりとさせていきたい。

全体としても、個々の活動としても、ゆったり家族やグループで若狭の夏の海を、自然を楽しむことができるような機会となるように検討を重ねていきたい。

5. 活動の様子



【波の穏やかな日でした】



【小さなお子さんも海で遊びました】



【親子で一緒に遊びます】



【海の上を SUP で散歩します】



【親子で協力してテント立て、野外炊事もします】



【うどんと豆腐も美味しくできました】



【たくさんの方のご参加、ありがとうございました】